

シンポジウム 「道民の生活を支える物流を語る in Sapporo」の開催について

北海道は、日本の食料基地と云われよう、農水産品やその加工食品を大消費地関東地域や関西地域に送り食エネルギーの重要な源となっています。逆に、日用品雑貨等の生活必需品は関東地域や関西地域からの移入に頼っています。かつ、移入品は、札幌及び近郊に納められ、再び道内各地に運ばれているケースが多いです。

この生産(製造)品を必要としているところに送り届けるのが**物流**ではありますが、この物流に大きな課題があります。幾つかを極簡単に触れてみたいと思います。

① 人手不足で、モノが運べなくなる！

少子高齢化によって、労働力人口はこれからも減少が続く
自然災害等への対応、2020年のオリ・パラ関連の工事等の増加
トラックドライバーは、運転と積卸作業の二面性を有す

② 自動車運転者の労働時間等の「改善告示」の厳格運用で益々人手不足！

トラックドライバーの長時間労働の解消への取組み
交通事故防止のため、休憩時間の確保と一日の運転時間の制約
広大な北海道、地域特性のある産業が発達し都市間距離が長く、日帰りが出来ない地域出現

③ 船舶のSO_x（硫黄酸化物）の規制（現行3.5%を0.5%に規制強化）でコストアップ

船舶燃料油の硫黄分濃度規制の強化を2020年から施行
この規制によりフェリー等の燃料油に纏わるコストは10数%アップ

④ 青函トンネル共用走行問題で当面の策を注視

当面は、新幹線を現行の140km/hを160km/hに速度を上げて走行
新幹線（200km/h以上）の走行は、正月、GW、お盆の時期に走行

⑤ JR北海道は10路線13線区が維持困難

貨物列車の運行に支障が出るのは3路線3線区
道庁の総合交通政策検討会議は、「維持に向けての検討」、「地域負担を含めて維持・検討」として、3線区とも残す方向を示す。要注視。

このような背景から、道民のライフラインである物流は、道本間の移出入、札幌圏と道北・道東地域等との物流に大きく貢献していますので、現状や課題等を紹介し、皆さんと共に考え、道民の生活を支える物流力を確保し、

「必要なモノを必要なトキに必要なところに届けること」

によって、北海道経済の発展、道民の生活を支えるライフライン（物流）」を維持発展させる方策を考えることを目的に、別紙要領によりシンポジウムを開催します。

年度末、何かとご多用中とは存じますが、多数の方々のご参加をお待ちしています。

「2018（平成30）年3月13日（火）北海商科大学で開催」（ご案内は別紙）

[参 考]

北海道・本州間月別貨物輸送量

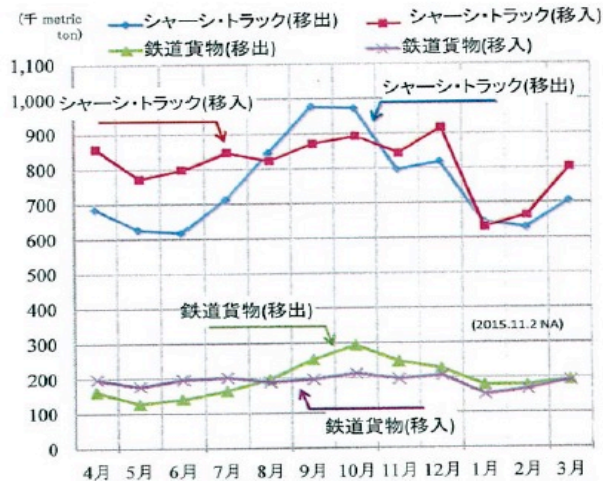
北海道・本州間の貨物輸送量を語るときに、海運 8 割、鉄道・トラックで 2 割と云われます。しかし、運ばれる物を見ますと、海運は多くが専用船で一度に数万トンも運ばれる

鉄鋼品、飼肥料、石油類等が主であり、鉄道・トラックは宅配貨物のように段ボール箱 1 個、農畜水産品や本州からの家財道具、加工食品等生活に密着した物等トン単位で運ばれる物資が主あります。

数値の使い方、見方に注意を要します。



「モノの運ばれ方・運ばれ方の選ばれ方」という観点からみた
「①他地域に対する北海道の特異性」



注)一般的には、貨物自動車
をフェリーで航送した場
合は自動車貨物輸送に分
類され、RORO船で航送
した場合は海運に分類さ
れるが、本研究では、フェリー・
RORO船双方による輸送を
示すため、自動車貨物輸
送と区別し、「シャーシ・ト
ラック輸送」と称す。

使用データ等：
・北海道港湾統計年報
(平成20～24年、北海道)
・日本貨物鉄道輸送実績
(平成20～24年度)
・国内主要トラックメー
カ約210車種の車両
情報(平成24年)

出典：シンポジウム ～地域経済の発展を支える物流と自治体の役割について in 十勝～
基調講演資料より(講師：北海商科大学 大学院教授 相浦宣徳様)

シ

シンポジウム ～地域経済の発展を支える物流と自治体の役割について in 十勝～

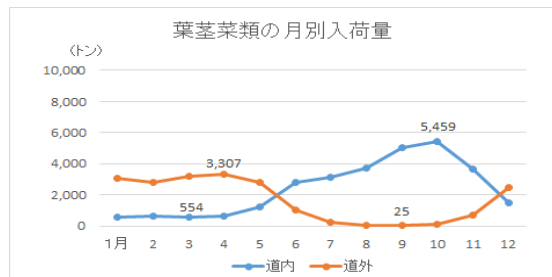
基調講演資料より(講師：北海商科大学 大学院教授 相浦宣徳様)

札幌市中央卸売市場の野菜類の入荷状況

{2017年、道内と道外(海外を含む)別}

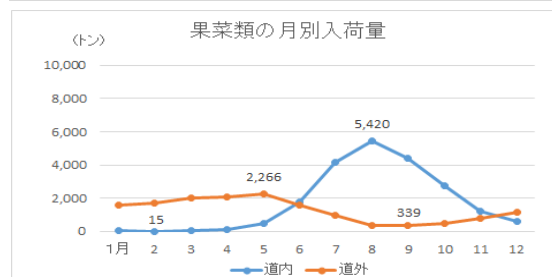
葉茎菜類(はくさい、キャベツ類、ネギ類等)

道内から	28.9千トン	59.3%
道外から	19.8千トン	40.7%
計	48.7千トン	100.0%



果菜類(きゅうり、トマト類等)

道内から	21.0千トン	57.9%
道外から	15.3千トン	42.1%
計	36.3千トン	100.0%



シンポジウム開催のご案内

道民の生活を支える物流を語る in Sapporo

開催日 2018年3月13日(火) 14:00~16:00
場所 北海商科大学 2号館5階「多目的ホール」
札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
地下鉄東豊線「学園前」出入口4番直結(地図等はウラ面)

参加無料 (定員200名、定員になり次第締め切ります)

シンポジウム

物流関係者からの話題提供

北海商科大学・大学院	教授	相浦 宣徳 様
北海道通運株式会社	代表取締役会長	松井 勝臣 様
新日本海フェリー株式会社 札幌支店	支店長	阿部 利宏 様

パネルディスカッション

パネリスト

株式会社ラルズ	常務取締役	松尾 直人 様
ネスレ日本株式会社 SCM 本部	マネジャー	上野 剛 様
一般社団法人北海道消費者協会	専務理事	矢島 収 様
新日本海フェリー株式会社 札幌支店	支店長	阿部 利宏 様
北海道通運株式会社	代表取締役会長	松井 勝臣 様
北海商科大学・大学院	教授	相浦 宣徳 様

コーディネーター

北海商科大学・大学院	商学研究科長	教授	阿部 秀明 様
------------	--------	----	---------

主催者等

共催者	北海商科大学	一般財団法人北海道運輸交通研究センター	
後援者	北海道経済連合会	北海道商工会議所連合会	札幌商工会議所
	北海道物流を支える鉄道輸送の会 {(公社) 鉄道貨物協会北海道支部、 北海道通運業連盟、北海道通運業連合会}		

道民の生活を支える物流を語る in Sapporo

ご参加申込方法

ご参加を頂ける方は、下記申込書に記入の上、FAXにより下記あて送信願います。
また、メールによりお申し込みの場合は、下記アドレスに貴企業団体名、ご参加者のお名前・お役職名をお知らせください。

なお、準備の都合上申込期日は、平成30年3月9日(金)までをお願い致します。

FAX 011-738-0063

mail address seminar@hotrec.or.jp

加 申 込 書		申込月日	月 日
貴企業団体名			
ご 参 加 者	お 名 前	お 役 職	

アクセス

地下鉄 東豊線 「学園前」
南北線 「中島公園」
「平岸」
東西線 「菊水」

バ ス じょうてつバス環56

なお、駐車場がありませんので、
公共交通機関のご利用をお願いします。

駅出入口4番 直結
駅出入口1番 徒歩15分
駅出入口1番 徒歩15分
駅出入口6番 徒歩12分
「学園前」下車すぐ

お問い合わせは下記をお願いします。

一般財団法人北海道運輸交通研究センター

担当 山本

Tel 011-738-0062

Mail h-pdsyamatake@aioros.ocn.ne.jp

